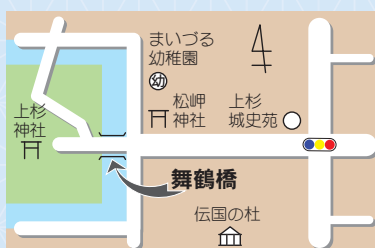




第7回

まい づる ばし
舞 鶴 橋

(丸の内一丁目)



今回は、松が岬公園の正面入口にあたる舞鶴橋を訪ねてみました。単独のアーチ橋ですが、市民からは「めがね橋」とも呼ばれ親しまれています。

明治19年竣工のアーチ式石橋

舞鶴橋という名称は、米沢城の別称「舞鶴城」に由来します。米沢城は、松岬城と舞鶴城という二つの別称を持っていました。舞鶴城と呼ばれたのは、米沢城下を上から眺めると鶴のような形をしていたからだと言われています。

舞鶴橋が完成したのは129年前の明治19年(1886)のこと。9月14日の「出羽新聞」には、「松岬公園内県社上杉神社前元大橋跡の石橋は既に落成したれば来る十二日を卜して落成式を挙げる積り」とあります。

残念ながら、石橋を造った石工の名は不明です。明治初期の万世大路の工事では、薩摩出身の土木技師・奥野忠蔵おくのちゆうざうの設計で滝ノ岩橋と滝ノ小橋というアーチ式石橋が築かれました。竣工は明治11年です。また、南陽市の吉田橋(南陽市指定文化財)は明治13年に宮内の石工・吉田善之助よしたのすけが築いたアーチ式石橋です。共に土木県令と称された三島通庸しみまみちゆの近代化政

策によって築かれた橋でした。

公園正面に架けられた舞鶴橋は、そうした先進技術に刺激を受け、アーチ式石橋が採用されたものと思われる。橋の長さは5m・幅7m、幅が広いのが特色です。平成10年には、国の登録有形文化財に指定されました。

石灯籠には秦逸三の名前が

舞鶴橋の東側左右には、大きな石灯籠が建っています。大正13年に献灯されたもので、台座には金百円を奉納した42人と鑄工・石工の名が刻まれたプレートがあります。奉納者には市内外の有力者が連なりますが、その中に「人造絹糸会社米沢工場代表 秦逸三」の名が見られます。帝国人絹(現在の帝人株式会社)の発祥が、米沢であることを示す灯籠でもあります。

石灯籠の石工は、米沢の勝見弥太郎かつみやたろうと山形の松田駒蔵まつだこま蔵でした。また、同時に松岬神社に青銅製の灯籠が献灯され、これは市内銅屋町の鈴木清兵衛すずきせいへいが担当しました。青銅製灯籠は、戦時中の金属供出のため、昭和18年にお寺の梵鐘ぼんしやうなどと共に供出され、今では写真でしか確認できません。



真心を込めて、全国へ

米沢の花卉(かき)栽培で主力を占めるアルストロメリア。出荷最盛期を迎えている木村さん(窪田町藤泉)を訪ねました。「日照時間が長くなる今の時期は、花の色付きも良くて日持ちする切り花に仕上がります」とのこと。大切に育てられた花は、全国に向けて出荷されます。

表紙
解説